伊豆沼・内沼 サンクチュアリセンターニュース

Sanctuary Center News

アサザは伊豆沼・内沼に生育する浮葉植物で
6～9月に花を咲かせます。

Vol.111
令和元年度9月号

昆虫採集と標本作りに挑戦

アゲハチョウを観察

8月3日（土）の第4回伊豆沼・内沼自然体験講座に小学生9人とその家族8人が参加しました。今回のテーマは「昆虫採集と標本作り」。センター前の水生植物園でトンボやチョウなどの昆虫を採集した後、標本作りに挑戦しました。子どもたちは『わくわくどきどき実験室実行委員会』の指導を受けながら、真剣な面持ちで取り組んでいました。また、チョウの羽の模様を写し取る鱗粉転写（りんぷんてんしゃ）にもチャレンジしました。チョウの羽の煌びやかな模様を写し取ることができ、子どもたちの歓声が上がりました。

アブラゼミをつかまえたよ

カラスアゲハの鱗粉を転写

標本作りのコツを教えてもらう

夏の伊豆沼自然と科学の体験会

アリジゴクの観察

8月4日（日）に『わくわくどきどき実験室実行委員会』が主催で、夏の伊豆沼自然と科学の体験会が開催されました。「水生微生物の観察」「昆虫のペーパークラフト」「アリジゴクの観察」「インクの色の分解」の4つの学びが体験でき、会場は多くの参加者で賑わっていました。

ペーパークラフトで昆虫を作る

ガンの飛び立ちを観察しませんか

参加者募集

伊豆沼・内沼自然体験講座の参加者を募集します。鳥の専門家による解説付きで、朝のマガンの飛び立ちを観察します。受け付けは10/1（火）からです。

ガンの飛び立ち観察会 &ラムサール湿地見学ツアー

第7回 11/3 （日）
第8回 11/24（日） 5:30～12:00

伊豆沼でマガンの飛び立ちを観察し、ラムサール登録湿地の蕪栗沼と化女沼も見学します。

ガンの飛び立ち観察会 & 沼歩き探鳥会

第９回 12/7 （土）
第10回 1/11 （土） 6:00～10:00

伊豆沼でマガンの飛び立ちを観察し、沼のまわりを歩きながら鳥を身近に観察しましょう。

対象:小学生以上（小学生は保護者同伴）**参加費**:中学生以上800円 小学生600円（朝食･保険代）**集合**:宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター（鳥館）（観察場所まで無料送迎します） **定員**:各日とも20名申込先着順 **持ち物**:履きなれた靴あるいは長靴、防寒着

学識者が平筒沼を視察

8月22日（木）、伊豆沼･内沼自然再生協議会の学識経験者が平筒沼（登米市）を視察しました。伊豆沼から約40分の場所に位置する平筒沼では、近年ハスの繁茂による水質汚濁が懸念され、刈り取り作業が行われています。当日は、ハスやヒシ、クロモなどをおよそ30名で刈取り、1日で軽トラック8台分以上を回収していました。刈り取らなければ、冬には泥となって沼に堆積します。まだ伊豆沼よりも水質が良好な平筒沼。地道な活動によりその水環境が守られています。

平筒沼のハス等の刈り取り作業

国土地理院の電子地形図に名称を追記して掲載

伊豆沼･内沼生き物図鑑 伊豆沼の希少魚ゼニタナゴとタナゴ、世界的な絶滅危惧種に指定

7月、伊豆沼・内沼にも生息するゼニタナゴやタナゴが、国際機関によって絶滅危惧種に指定されました。指定したのは国際自然保護連合（IUCN）、生物多様性や生態系保全に取り組む国際機関です。

ゼニタナゴやタナゴは日本にしか生息していない固有種。日本から姿を消すことは、種の絶滅を意味します。今回IUCNは、日本固有の淡水魚の約半数が絶滅の危機に瀕していると指摘しました。河川改修などの各種工事や水質汚濁、外来生物など、平野部の淡水魚はさまざまな影響を受けています。幸い、伊豆沼・内沼では絶滅危惧種が復活の兆しを見せています。これら「日本の魚」を将来世代に残せるよう、今後も努めたいと思います。

ゼニタナゴ

タナゴ

〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
宮城県伊豆沼･内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 （公財)宮城県伊豆沼･内沼環境保全財団
Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ:http://izunuma.org/
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp